

# みんなく 私の逸品 石貨

世界最大のお金として有名なヤップ島の石貨を、みんなくは現在、八枚、所蔵している。そのなかでもっとも大きい石貨が、今年二月に新しくなったオセアニア展示に登場した。私の計測によると直径一二七センチメートル、厚み一五センチメートルと、なかなか大きい。

この石貨は当初、みんなくが開館した一年半後の一九七九年春、正面入口近くに屋外展示されたが、特別展示館の建設にもなつて取り外され、以後、収蔵庫に眠ったままとなっていた。それが四半世紀ぶりに、再び日の目を見ることになったのである。

ヤップ島では、石畳の路傍や集会所など、島の各所に直径が一メートルを超すドーナツ状の石のお金が立てかけてあり、独特な景観を形づくっている。しかし、私には子どものころに見て冒険心をかきたてられた、南洋の古い写真や挿絵などが目に浮かび、懐かしい思い出にも似た雰囲気を感じる。

石貨は結晶質石灰岩(炭酸カルシウム、霰石<sup>あられいし</sup>)製で、大理石の一種とあつて、研磨した面は透明な結晶を含み、美しい。かつてヤップ島から五〇〇キロメートルも離れたパラオ諸島へカヌーで出かけ、苦勞して切り出し、成形したため、その価値が生じた。

そして島民は今日においてもなお、文字どおり石のお金を使っている。ふつうの通貨としてはアメリカ・ドルを使い、銀行もあり、商店ではドルで買い物をする。しかし結婚や葬儀、集会所の落成式といった、社会関係を築き維持する儀礼的交換の場では、いまでもつてこのような伝統的な貨幣を用いているのである。

展示されたこの石貨は、現館長が若いころ、収集した資料である。個人的には、ヤップ島は私にとってははじめてのオセアニアでの調査地で、青柳真智子先生<sup>あおやま まちこ</sup>と牛島巖先生<sup>うしじま いわお</sup>の助手として、一九七三年の夏、かの地を踏んだ。その後も幾度か調査にあたり、また家屋や石貨を収集した。さらに石貨をパラオまで切り出しに行くという、実験考古学的な試みを具体的に計画したこともあつて、ことに印象深い場所となっている。



標本番号 H0010156  
地域 ミクロネシア連邦ヤップ州  
収集年 1977年

民博 文化資源研究センター

小林 繁樹<sup>こばやし しげき</sup>